はじめ君と箕面の親子ハイクに行こう
～行くぞ！　箕面の山のレスキュー隊！～

浜嶋鉱一郎

豊中第２団の HP（９月８日）から引用

親子ハイクまでのできごとをリアルタイムにＨＰで公開します。

・　９月　９日　オープンスクールについて
・　９月１０日　ハイキングは気持ちがいいです
・　９月１２日　キムスゲームについて
・　９月１４日　ハイキングに必要なものは何？
・　９月１６日　道ですれちがったら「こんにちは」
・　９月１８日　お弁当で注意することは何？
・　９月１９日　小学校のチラシ配布の予告
・　９月２０日　ＨＰを見ていただいてありがとう
・　９月２５日　「レスキュー隊は、箕面の山で何をするのかな」
・　９月２６日　「助け合い階段とは」
・　９月２９日　「負傷者はどこだ？　展望台から情報を入手しよう」
・１０月　１日　「負傷者は崖の下にいるぞ！　ロープで助けよう」
・１０月　４日　「負傷者はどうやって運ぶのか」
・１０月　６日　「友情を深めよう。班対抗ゲームだ、イエーイ」
・１０月　７日　「安全はすべてに優先します」

まえがき

豊中第２団は、親子ハイクを企画してボーイスカウト風のハイキングを楽しんでもらおうとした。また、この親子ハイクの説明をＨＰで事前に行って、親子ハイクに参加する人に十分な説明をして、本番を楽しみにしてもらうことを目指した。本番で行う大事な部分については話さない。期待感を持ってもらえるところまでしか説明はしない。説明が具体的で面白いものになり、知識としても興味を持てれば、参加しない人でも楽しめる。事前の説明で知らされていないことも、当日が終われば、具体的な説明を追加され、全体が理解できるようにする。

これまでのボーイスカウトの活動は、隊集会のお知らせの中で、参加意欲を高める情報提供を行い、本当の楽しみは、「当日のお楽しみ」という発想で行ってきた。それでは、参加者にもっと伝えたいという部分が欠落することもある。情報は、楽しみを最大限に高め、本番の体験で納得し、体験で多くのことを学んでもらえる結果になることが最大の効果になる。

各団でＨＰを活用するようになって、事前の情報提供と楽しみを増大させる効果を大きく変えられるようになった。事前に情報をどのように、どこまで提供すると集会を実施する効果を最大限に高められるか。実際にその効果を試行し、今後の活動に生かしていきたいと考えている。

今回は、団行事を対象にした。一般の方々に体験してもらう親子ハイクなので、さまざまな情報を提供したい。この情報で、ハイキングに関する知識を増やしてほしい。特に始めて体験する親子には、親子ハイクに安心して体験してもらうことを目指している。ボーイスカウトの一般的な考え方や豊中第２団の伝統的な考え方やノウハウを提供したい。これは他の団のボーイスカウト関係者にも参考にしてもらえる。

私たちが、安全を第一優先にして活動をしていることや、ボーイスカウト活動はスカウトの教育のためにしていることを知ってほしい。ＨＰで約１ヶ月間、１５回の情報提供を行った。今後、内容を改善しながら、もっと楽しめるプログラムにしていきたいと考えている。

親子ハイクまでの物語
はじめ君は、わくわく感が高まっていく

　はじめ君は、桜塚小学校の２年生だ。９月９日は、桜塚小学校のオープンスクールがある。最初に授業参観があり、そのあとは体育館や運動場で遊びのプログラムが予定されている。
　今年も豊中第２団は、「モンキーブリッジ」を準備していた。去年は２番人気になった。
「はじめ、お母さん、明日の授業参観を楽しみにしているよ。頑張ってね」
「うん。それに、明日は、またモンキーブリッジがあるんだよ」
「はじめは、去年少し苦労したわね。今年は大丈夫かな」
「大きくなっているから大丈夫だよ。楽しみだな。一番最初にやりに行くよ」
「そう、頑張ってね」
　はじめとお母さんは、オープンスクールの前日になって、こんな会話をしていた。

　一方、モンキーブリッジを担当する豊中第２団の浜嶋団委員長は、ＰＴＡの中川会長から頼まれて、昨年に続いて実施する準備をしていた。今年は中川会長から隊員募集のちらしを手配りで配布してもいいよと言われていたので、豊中第２団の紹介チラシを準備している。カラー印刷をしたものだ。
　ちらしには、昨年のモンキーブリッジの写真が掲載されている。それから豊中第２団の活動の紹介や豊中第２団の特徴が書かれてある。そして、１０月８日に開催予定の「親子ハイクの案内」もちらしの裏面に紹介され、ＨＰのＵＲＬが明記されている。
　浜嶋団委員長は、モンキーブリッジを楽しんでもらったら、次は家族で親子ハイクにも参加してほしいと考えていた。親子ハイクの案内は、９月の後半に小学校３年生までを対象に配布される予定である。今は、印刷が終わっていないので、まだ配布できない。それで、ＨＰを見てもらうことにしている。
　はじめとお母さんが、明日の話をしているときには、豊中第２団のＨＰには、親子ハイクの案内が掲載されていた。明日のチラシを配布したら、保護者に見てもらうために前日に掲載したのだ。
　ＨＰでは、９月９日から１０月８日の親子ハイクの当日まで、準備段階で子

どもたちにわくわくした気持になってもらおうと、いろいろな情報をリアルタイムに掲載することを計画している。親子ハイクに参加できる子どもも参加できない子どもも約１ヶ月の間ＨＰを見れば楽しめるようにしたいと考えている。

この情報内容は、力が入っていた。ＴＯＰ画面には、親子ハイクをお知らせする特別なリンクボタンが付けられた。親子ハイクを説明するページに移動すると、すべての情報が掲載されている。また、ＴＯＰ画面の別の場所にもチラシを縮小した画像から拡大できるようにしている。団からのお知らせページから、新規の情報の掲載が行われる。この期間は、親子ハイクの特別な情報を掲載することにしている。参加者からの質問も公開する予定だ。参加者に親子ハイクで行うことをしっかり頭にいれてもらって、１００％以上楽しめる工夫をしようとするものである。

●ＨＰの掲載 　　**親子ハイクのページ**

**～～～

日本ボーイスカウト大阪
file:///C:/Users/hamajima/AppData/Local/Temp/event.html
「子どもたちを大きく育てよう」
楽しいぞ！　一緒にやると楽しいぞ！　冒険にチャレンジしよう！
10．08　親子ハイクのご案内
日本ボーイスカウト大阪連盟豊中第２団
TOPに戻る
１０月８日（日）豊中第２団　親子ハイク　「行くぞ！　箕面の山のレスキュー隊！」のご案内
【９月８日～１０月８日まで連続情報発信中】
◆新着情報
・【2017年9月8日12:00】１０月８日（日）８：３０～１６：００　箕面の山の親子ハイクのご案内
左記のチラシをご覧ください。
※クリックで拡大表示します。

～～～

はじめは、豊中第２団が作業をしているジャングルジムまで走っていった。
「やあ、あとでモンキーブリッジに乗りに来てね」
作業を監督している人が、はじめに声をかけた。
「今年は、しっかり乗れるよ」
「そうだね。去年、やってくれたんだね。今年は大丈夫だね。頑張ってね」
「うん。大丈夫だよ。一番に来るからね」
「待ってるよ。授業頑張ってね」
「じゃあね」
はじめは、そう返事すると校舎の方に走って行った。

「おおーい。頑張ろうぜ。楽しみにしている生徒がいるぞ」
浜嶋団委員長が全員に声を掛けた。モンキーブリッジは、着々と構築が進んでいった。

９時３０分にモンキーブリッジは完成した。
「今回は、すごく高くなったね」と監督していた浜嶋団委員長がみんなに声をかけた。
「結構恐いかもしれないね」、「そうだね」と返事が返ってきた。
「１年生は大丈夫かな。さっき見に来た生徒には頑張ってほしいね」
「レッツ、チャレンジだ」
と白木副長が言った。
白木副長は昨年までビーバー隊の隊長をしていて、隊集会で「グッモーニン！」の英語の挨拶に力を入れていた。今でも続けている。
「よし、試し渡りをさせてもらうね」と浜嶋団委員長が梯子を上りだした。
「高いなあ、眺めは抜群だけど、子どもはどうかな。子どもの視点はもう少し下になるけど、恐さと面白さが同居しているかな」
「おいおい、揺すらないでよ」
「チャレンジ、チャレンジだよ」
と白木副長が笑いながら、揺すっていた。
団委員長が、脚立を使って下りてきた。
「しっかりできているから安全面では大丈夫だね」
「落ちた場合のマットもしっかり用意していますよ。いままで落ちた人はいないけど、子どもたちも保護者も安心しますからね」
「そうだね。それと、いつものように登り口と降り口、それから途中で一人補助者を付けよう。はい、完成です。お疲れ様でした」

１０時になると、校舎から少しずつ生徒が飛び出してきた。はじめが先頭にいた。
「一番だあ。もう上がってもいでですか」
やる気満々だ。
「君の名前はなんていうの？」
「はじめ、はじめだよ」
「はじめ君が一番初めになったんだね。頑張ってね」
お母さんらしい保護者が近づいてきた。軽く会釈した。
「お子さんですか。ずいぶん期待していますよ」
「昨年は少してこずりましたから、今年は頑張っているんです」
「そうでしたか。あのー、チラシを見ていただきましたか」
「はい、見ました」
「裏面に、１０月８日の親子ハイクについて紹介してあるんですけど、どうですか」
「箕面の山を登るんですね。どんなところですか」
「山ですから、少しきついところもありますが、一般向けのコースです。歩くだけでなく、いろいろなゲームもして楽しみながら歩きます」
「レスキュー隊になるんですか」
「そうです。グループで歩きますから、その班をレスキュー隊に見立てているんです。レスキュー隊ですから、それらしい技能も覚えられます」
「誰かを助けるために登るんですか」
「負傷者を救助する想定です。救助してから担架で下まで降ろします」
「えー、担架で負傷者を運ぶんですか。そんなたいへんなことまでできるんですか」
「想定です。負傷者の救助はロープを使って体験してもらいます。救助した後は、負傷者は人形を使います。小さな背負子に乗せて体を縛り、担いで運んでもらいます。交互に運べば簡単に運べます」
「なにか、面白そうですね」
この話の間、生徒がどんどん集まってきて、待っている列が長くなりかけていた。
はじめが、お母さんに向かって言った。
「お母さん、楽しいよ。もう一回やるからね」
「よかったわね。気をつけてね」
「はーい」
浜嶋団委員長は、うれしそうに見送った。
「はじめ君、大丈夫でしたね。親子ハイクにも、ぜひチャレンジしてください。

お子さん、１日で少し変わりますよ」
「どんなふうにですか」
「そうですね。目的のための目標を達成した充実感のようなものを感じて、これからもチャレンジする気持ちが芽生えるんじゃないかと思います」
「具体的に得られるものはありますか」
「いくつかありますよ。ボーイスカウトの特徴は、観察力を鍛えることです。自然の中では、景色の変化がとても刺激になって脳にいいんです。いつも異なる景色が見られます。その刺激を受けて自然に観察力がつくのですが、それを意識的に鍛えます。ゲームを取り入れます」
「観察力は日常でどんな役にたつのでしょう」
「それはうれしい質問ですね。まず、安全が一番大切ですね。自分を守るためには、周囲の状況をよく見ておくことが重要です。それは観察力です」
「道を歩くときの注意ですね」
「そうです。それにボーイスカウトのスローガン、目標ですけどね。『日日の善行』ということを心がけていて、自分以外の人を助けるとか、街を美しくすることも考えています」
「そんなこともしているんですか」
「いつも、いつもチャンスはありませんが、心がけていることでタイムリーにお手伝いができます。私は、年間で１０回ほどチャンスがありますが、成功するのは半分です。すぐに行動に移さないとチャンスは無くなります」
「どんな時が失敗するんですか」
「たとえば、落し物をされたときにすぐ声を掛けないとその人が行ってしまって渡せなくなります。家の鍵や手袋がありました。マフラーは成功しました。すぐに追いかけて駅の改札に入る前に追いつきました。その人から離れて発見したときが難しいです。失敗すると私が落ち込みます。だから、すぐに対応するように心の準備をしています」
「子どもたちは無理ですね」
「いつかできるようにしてほしいと願っています」
「いろいろありがとうございました」
「いえ、こちらこそありがとうございました。親子ハイク参加してくださいね。連絡をお待ちしています。この連絡先は私になっています。浜嶋と申します。よろしくお願いします」
　そこへ、はじめが戻ってきた。
「おかあさん、僕２回もやっちゃった」
「ほんと、楽々できるようになったね」

お母さんは、夕方、手のあいたときにＨＰを調べてみた。
チラシに掲載されたアドレスを入れると豊中第２団のＨＰが現れた。
「あ、オープンスクールの様子が載っているわ。これは、はじめじゃないかな」
「ほんとだ。後姿だけど、これは絶対僕だよ」
「ほんとだ。顔が分からないような写真にしてあるんだよ。」

●ＨＰの掲載 　　**オープンスクールについて**

豊中第２団は、オープンスクールの様子をＨＰに掲載した。

～～～

豊中第２団は、親子ハイクの案内を２段構えで考えている。９月９日のオープンスクールで、隊員募集のチラシを桜塚小学校の保護者に配布する。９日以降の隊集会に参加してもらおうというものだ。そこに１０月８日の親子ハイクの案内も掲載し、詳細はＨＰを見てもらうことにする。

親子ハイクは、桜塚小学校の他に南桜塚、熊野田、北条小学校に配布する。このお知らせは、９月２０日を予定しており、桜塚小学校の保護者には、９月２０日からの情報発信につなぎたいので、継続して情報を発信する工夫を行うことにしたのだ。

親子ハイクに参加してもらいたいし、参加したくなるような話題を提供していく。仮に参加できなくても、面白い話を継続的に行うことで、豊中第２団を理解したり、ボーイスカウトに興味を持ってもらえればそれでいい。ＨＰを継続して見てくれることができればそれもありがたいことだ。

翌日、はじめとお母さんは、ＨＰを見ることにした。以下が掲載されていた。

キャプテンＢＳは、チラシに表示されていた海賊の船長だ。

●ＨＰの掲載 **ハイキングは気持ちがいいです**

**～～～

山は、樹木がいっぱいです。森林浴になりますね。道は登ったり下ったり、きつい道もあれば平らなところもあります。自然の中は土の道ですね。細い道は、尾根であったり、谷間であったり、いろいろな場所を歩きます。山の上に行くと景色が良い場所が出てきますね。「こんなに登ってきたんだ。海が見える。いい眺めだな」なんて、歩いてきたしんどい気持ちを吹き飛ばす気持ちの良い景色を見ることが楽しみですね。

空気が澄んでいて、空気がおいしい。汗を乾かしてくれる気持のいい風を感じる。「ああ、気持ちがいい」と感じられます。それに、高く登れたことの達成感も格別です。

ハイキングは、体にいいです。健康を感じる幸せを味わうことができます。たまには、ハイキングを楽しみましょう。そして、好きになるといいですね。

そんなハイキングを体験してもらえたらうれしいです。親子で体験しましょう。今回は、豊中駅からたった１７分で、箕面の山に着きます。そこは、豊中とは別世界です。「行くぞ！　箕面の山のレスキュー隊！」のテーマで、気持ちのいい時間をボーイスカウトと過ごしませんか。いろいろなプログラムで充実した一日を過ごしてください。

次は、９月１２日に掲載します。「キムスゲームについて」です。必ず見てくださいね。

～～～

●ＨＰの掲載 　　キムスゲームについて

～～～

緒にインド北部のいたる所を旅行した。

　ある日、偶然にも彼に父がもといた連隊が行軍するのに出会い、キャンプを訪ねたところが泥棒と疑われ捕えられてしまった。出生証明書やその他の書類を身につけていたので、彼がこの連隊に関係のある者であることがわかり、引き取られて連隊で教育を受けることになった。しかし、休日に外出できるときは、キムはいつもインドの服を着て、土地の人たちの仲間に入っていた。

　しばらくしてキムは、古い宝石やこっとう品を扱う商人で、現地人についての知識が深いため、政府の情報部員も勤めているラーガンという人と知り合った。

　彼は、キムが土地の風俗習慣を特別よく知っているのに目をつけ、役に立つ政府の情報部員にできると考えた。そこでキムに、スカウト訓練のなかでも大事な、細かい点まで見落とさないで記憶するということを教えた」

　前置きが長かったですが、ここでキムスゲームの説明として「キムの訓練」の話になります。

　「ラーガンは、まずいろいろな種類の宝石がいっぱい入っている盆を見せた。１分間見せてから布で盆をおおって、どのような石がいくつあったかを言わせた。最初キムは二つか三つしか思い出せなかったし、どんな石であったか正確に説明することもできなかったが、少し練習すると、すぐに全部をよく覚えられるようになった。この方法で、そのほかのいろいろな品物をたくさん見せられても、やはり同じように覚えられるようになった。

　その他いろいろな訓練をたくさん受けてからキムは情報部員になり、秘密のサインをもらった。―――それは、ロケット、つまり首にかける記章と、特別な言い方をすれば情報部員の証明になる合い言葉であった」

　この本を参考にして、いろいろなことをテーマにして、観察力を高めます。これをキム少年の名前から、キムスゲームと呼びます。

　今回のキムスゲームは、レスキュー隊にちなんだいろいろなグッズをテーマ

に考えています。少し勉強しておいてください。

　では、９月１４日にお会いしましょう。テーマは、「道ですれちがったら『こんにちは』」です。
～～～

　それから大事な物は、弁当と水筒です。水の量は、個人によって違います。最低で５００ミリリットルは必要です。たくさん水を飲む人は、１リットル用意しましょう。重たい水筒は避けて、軽い水筒にしましょう。冷たい水を飲みたい人は、ペットボトルを凍らせてタオルに巻いて持って行くのをお勧めします。容器はできるだけ軽い方がいいですね。
　水筒の持ち方で、大事なことがあります。皆さんは、ザックの外に水筒を首にかけて持っていますね。学校の中でも遠足でもすぐに飲むことができるからそれが便利ですね。でも、ボーイスカウトでは、水筒はザックに入れるようにしています。ハイキングで山を歩くときに水筒がぶらぶらしていたら、邪魔になりませんか。ザックに入れておけば固定されて、歩きやすいですよ。水筒が入る大きさのザックを用意してください。私たちは、安全に歩くことを心がけています。
　また、水の飲み方が大切です。がぶ飲みせずに少しずつ飲みましょう。水が無くならないように、残りの水を確認しながら、少しずつ飲みましょう。
　靴は、いつも履いている靴にしてくださいね。新しい靴や履きなれていない靴は、靴ずれが起きると大変です。できたら、バンドエイドを用意しておいたら安心ですね。
　どうですか。もし、わからないことがあったら連絡してください。説明させていただきます。

　次は、９月１６日に掲載します。テーマは、「道ですれちがったら『こんにちは』」です。必ず見てくださいね。
～～～

「あ、そうか。そのつもりになっていたわ」
「ははは、はじめ、親子ハイクに参加してみようか」
「うん、行こう、行こう」
「行くぞ！　レスキュー隊！　だね」
「レスキュー隊の説明は、いつ頃してくれるんだろう」
「そのうちね、楽しみにしていましょう」
「そうだね」

はじめは、今日のテーマ「道ですれちがったら『こんにちは』」は、どんなことだろうかとＨＰを見ることを楽しみにしていた。

●ＨＰの掲載 　　**道ですれちがったら「こんにちは」**

**～～～

次は、９月１８日に掲載します。「お弁当で注意することは何？」です。必ず見てくださいね。
～～～

飯と梅干だけでは、物足りない人がいるかもしれません。そういう人は、梅干の代わりにから揚げやその他好きな物を入れています。おにぎりの横にもおかずを挟んでもいいかもしれません。自由に考えておいしいおにぎりにしてください。

次は、おにぎりが腐らないようにしてください。１０月はかなり涼しくなっていますが、お日様の下を歩きますから、ザックの中が暖かくなることもあります。おにぎりが暖かくなると腐りやすくなります。そこで、おにぎりは、十分冷やしてからザックに入れてください。それから、腐るのを防止するために、塩をかけたり、梅干を入れたりします。

それ以外に冷やすのは、最近は保冷剤をおにぎりと一緒に入れておくといいですね。こうすれば、暖かい日でも冷たく保存できます。

お弁当をおいしく安全に食べるための工夫について、説明しました。

次は、９月１９日に掲載します。「小学校のチラシ配布の予告」です。必ず見てくださいね。

〜〜〜

●ＨＰの掲載 小学校のチラシ配布の予告

～～～

「うん、予告だけじゃあ、だめだもんね」
「まあ、よかったわね。『そなえよつねに』か、いいことだと思うわ。でも実行することは難しいね」

●ＨＰの掲載 ＨＰを見ていただいてありがとう

～～～

こで、各班は、混成チームにします。年代が異なる仲間が班を構成します。体験していただける方には、年上のスカウトやリーダーが同じ班にいますので、安心して参加してください。歩きながらいろいろなことを教えてもらえると思います。しんどい時は助けてくれると思います。また、同年代のスカウトやその保護者もいますので、仲良くなってほしいですね。

親子ハイクの参加申し込みは開始しています。お早く申込をお願いします。

次は、９月２３日に掲載します。テーマは、「レスキュー隊は、箕面の山で何をするのかな」です。必ず見てくださいね。

〜〜〜

●ＨＰの掲載 　　「レスキュー隊は、箕面の山で何をするのかな」

～～～

～～～

入れるとかなりのペースで上がることになります。１年生のスカウトから中年指導者が混じった混成グループですから、それぞれのペースが異なりますね。
　そして、この階段には、指令書で課題が与えられています。
「標識には３８０段の階段と書かれてあるが、本当に正しいのか調べよ」
　この趣旨は、レスキュー隊は正しい情報に基づいて活動することが重要なので自分たちで調査する必要があるということです。

　さて、この階段を各班はどのような方法で上がるでしょうね。それを考えると楽しいですね。
　皆で楽しい気持ちで上がるか、「しんどい、しんどい」と言いながら上がるのでしょうか。楽しく上がる方が疲れが少なく、上りきった後の歩きが楽になります。しかも、階段の数を正確に調べないといけないですね。数えて上がる方が、１９０段を過ぎれば残りが少なくなるから気持ちが楽しくなりますよ。数えないと後どれだけかを気にしながら上がるので疲れます。また、３５０段ぐらいまでずっとしんどいでしょう。終わりが見えてからやっと気持が楽になります。
　ここは、ゲーム感覚で楽しく上がることがよさそうですよ。ペースを守って、ゆっくり確実に上がってはどうでしょうか。知恵を出し合って楽しく上がりましょう。
　それに、ここは「助け合い階段」だから、弱いものを助けて上がれば、早く上がることができます。３人ぐらいのチームで歩くか、全員で助け合うか、これも考えてみましょう。

　この階段では、次の目標を達成してもらいます。３年生から５年生年代のカブ隊では、カブスカウトのさだめがあります。そのひとつの「カブスカウトはたがいにたすけあいます」、もう一つ「カブスカウトは　おさないものをいたわります」という目標を実施してくださいね。

　では、９月２７日にお会いしましょう。テーマは、「秘密のサインで行き先がわかる」です。See you again.
～～～

「時間は２０分でしょ。僕は、一気に上がってみるわ」
「ゆっくり上がってね。お母さんを置いて行かないように」
「そうだね。みんなであがるわ。お母さんがしんどかったら、助けてあげる」
「ありがとう。頼りにしてるわ」

「お母さん、今日は、秘密のサインだって　どこにサインがあるんだろう」
「なんだろう。母さん、負傷者はどこにいるのかなと心配していたの」

●ＨＰの掲載 「秘密のサインで行き先がわかる」

～～～

ちません。だから、サインを作成する人はよく考えて、「壊れない」、「見つけやすい」、「分かりやすい」サインを準備します。この追跡サインは、明らかに今日作成したものと分かるようにするにはどうすればいいでしょうか。たとえば、枝や草で作成する時は、新しいものというのが判断の目安です。枯れてしまった枝や草は、ずっと前に作成したことになりますから、これは他の人のために用意された追跡サインということになります。枯れた枝でもナイフで削った跡が新しい場合は、有功となります。今はナイフを持ち歩きませんが、以前はボーイスカウトはナイフを与えられていつも持っていました。今は、リーダーはナイフを持っています。

　また、枯れた枝でも周りの落ち葉などをきれいに取り除いた跡が新しいと分かれば、その追跡サインが有効だと分かります。観察するときは、道の歩く場所から少し離れたところを見て歩くといいですね。

　「追跡サイン」の形は、多くは→です。逆Ｙの形の枝は追跡サインになります。逆Ｙの字は、その形をした枝が多くありますから、よく利用されます。まっすぐな枝を組み合わせるやり方もありますが、壊れやすいです。

　歩きながら「追跡サイン」を見つけるのは楽しいですね。あなたは、いくつ見つけられるでしょうか。たくさん見つけてください。

　では、９月２９日にお会いしましょう。テーマは、「負傷者はどこだ？　展望台から情報を入手しよう」です。See you again.

～～～

今回は、手旗をどのように使うかの話です。
「山に登れ！　展望台で負傷者の場所が分かる。見つけてください」と指令書に書かれていますが、負傷者がどこにいるのか書かれていません。展望台に行けば、そこにヒントがあるらしいです。手旗の相手はどこにいるのでしょうか。展望台にはいないと思います。「えーー、じゃあどこにいるんだ」と思いませんか。どうなるのでしょうか。ここまではお伝えしてもいいそうです。皆さんはどう思いますか。とにかく、お楽しみです。
それで、手旗を使うかもしれません。手旗を知っていないと負傷者の位置はわからないでしょうね。だから、手旗はどのように使うかだけ説明しておきます。現地で考えてください。
手旗は、右手に赤色、左手に白色の旗を持って、カタカナの形を線で示します。それを読み取ることで相手に伝えることができます。１文字ずつ伝えます。難しいですよ。慣れれば簡単です。どこが難しいかと言うと、相手を見ながらサインを送りますから。文字は相手が見えるように打ちます。つまり、自分は反対向きに形を伝えないといけないです。
もう一つ難しいことは、手旗の相手はどこにいるのでしょうか。展望台から探すと相当遠いところですよ。手旗は見えるのでしょうか。遠いところを見えるようにする道具が要りますね。どうするんでしょうか。
道具があったとして、あなたは手旗を読めますか。まだ読めませんよね。知らないですから。読むだけなら何とかなりますか。当日までに練習すればできるかもしれません。簡単な文字はわかりますよ。「ノ」とか「へ」とか「リ」です。まだ、「ハ」、「フ」、「ニ」、「レ」、「ク」もあります。少し役に立つかもしれません。
「カブスカウトは　たがいにたすけあいます」と前回言いました。みんなで協力する時に、読み取った文字をメモする担当も必要ですから、役割分担すれば、答えが見つかりますね。全員で頑張ってください。
もし、手旗で行き先が分からなかったら、レスキュー隊は負傷者を助けることができません。でも、心配いりません。班の中で手旗が得意な隊員がいます。大丈夫です。

次は、１０月１日です。テーマは、「負傷者は崖の下にいるぞ！　ロープで助けよう」です。お楽しみに！！
～～～

「あまり、先に知ると面白くないからじゃないかな。逆に気になってしまうね」
「でも、僕たちはお手伝いだね」
「班の役割分担と団結力が大事なのよ」

「崖ってどこにあるの」
「さあ、わからないわね」
「展望台の下かな」
「そうじゃないと思うわ。展望台では、負傷者のいる場所がわかるだけよ」
「そうか、そこへ移動して負傷者を助けるということか」
「そうよ」

●ＨＰの掲載 　　**「負傷者は崖の下にいるぞ！　ロープで助けよう」**

～～～

あ、しゃべり過ぎたかな。ここまでです。皆で協力して救助しましょう。ここで手伝わないとレスキュー隊員と言わないですよ。崖の高さが低いといいですね。
　頑張ってください。

　次は、１０月４日です。テーマは、「負傷者はどうやって運ぶのかな」です。お楽しみに！！
～～～

ー隊はそれぐらいできるはずです。本物の担架が無い場合は、ボーイスカウトでは棒が２本あると、衣服を使って担架を作成することができます。また、ブルーシートがあれば、それで担架を作成できます。また、ボーイスカウトは、救急法を勉強しています。運動会でも救急処理と担架で運搬することを組み合わせた競技を毎年行っています。だから、ボーイ隊以上のスカウトやリーダーならできます。

負傷者の容体によってさまざまな方法が考えられます。ここで、レスキュー隊はどうするのでしょうか。

これ以上は、話をしてはいけないと口止めされています。ごめんなさいね。心配しないでいいです。レスキュー隊は、りっぱに使命を果たすことができます。頑張ってください。

次は、１０月６日です。いよいよ親子ハイクが間近になりました。そろそろお話も最後ですね。テーマは、「安全はすべてに優先します」です。お楽しみに！！

～～～

豊中第２団として、一番大事な準備と実施については、「安全最優先」です。
皆さんが、親子ハイクを楽しんでいただいて、無事に家に帰りつくための対策を考えています。当日は、安全のために不本意と思われるようなお願いをするかもしれませんが、安全がすべてに優先しますので、ご理解を頂いて、楽しく体験していただきますようお願いします。
今回の企画及び実施にあたりまして、企画グループの下見を２回、実施のために隊指導者の全体下見を２回実施しています。車班については、別途車の下見をしています。

安全対策については、豊中人工広場からの電車の乗車及び降車はもちろん、現地の歩行及び各ポイントでの安全確認と安全対策をまとめています。それを各指導者に徹底して理解させ、当日の事故防止対策として実施します。
特に体験者におかれましては、お子さんにも安全優先についてお話をいただき、班の仲間と同様な行動をすることを自覚させていただきますようにお願いします。
車道での歩行については、前後の車両通行に留意し、注意を適時指示します。山道では、事前の危険個所について注意を与えます。先頭と後尾は、班長または指導者を配置し、安全を確保します。
お弁当や水筒については、すでにご説明したようなことです。当日になにかありましたら、すぐに班指導者にご連絡いただきますようお願いします。
不慮の怪我等に対応できる救急ボックスを各班で持参します。その他の事故についても対応できる準備を行います。
このような安全対策を準備して、事故のない活動を目指しています。安全対策計画書はＨＰに掲載しています。興味があったら読んで下さい。

明日が最後のお知らせになります。
「明日は楽しく、気持よく。それとしっかり準備」です。
よろしくお願いします。
～～～

●ＨＰの掲載 「明日は楽しく、気持よく。それとしっかり準備」

～～～

親子ハイクが始まった
レスキュー隊！ 出動！

はじめが待ちに待った親子ハイクの当日となった。

豊中駅人工広場に着くと大勢のボーイスカウトがいた。それに混じって私服の親子組も数人いた。参加者は、なぜかはじめ君だけだった。集まったメンバーは、とりあえず箕面駅まで移動し、少し広いスペースで、各班９名～１０名のレスキュー隊が３班構成された。

ここで、全員がレスキュー隊に任命された。レスキュー隊には、班長が決められた。班長は、指令書を受取り、ハイキングの目的とハイキングルート、ここでは救助ルートを確認した。小学校６年生のボーイ隊のスカウトが、班長となり、班を引っ張っていくことになった。もちろん、大人のリーダーが一人付き添って要所で指導してくれた。リーダーが少ないのは、ポイントを担当する役割を担っていたからだ。龍安寺に到着すると準備のため、そのまま山道を登って行った。

指令書の概要は、こうだった。

ちょうどハイキングの真ん中あたりになるどこかに負傷者がいる。その負傷者は崖の下で足を痛めて動けなくなっている。この人を救助する内容である。負傷者がいる場所は、展望台に着いたら指令所の指示に従えばわかるようになる。指令書というだけで具体的なことが示されていない。ハイキングの途中で分かることになっている。しかも、レスキュー隊のメンバーは、今任命されたばかりで、何も知らないものばかりだ。そこで、道々、訓練を重ね、技能やノウハウをしっかり身につけて、レスキュー隊員として成長してもらうと期待されている。

特に指示を受けた場所は、「３８０段の階段」、「途中の追跡サイン」、「展望台の指令書」、「負傷者の救出」、「レスキュー隊キムス」などであった。

これらを進む中で、しんどいところもあったが、それを乗り越えると、何かしら大きな達成感を感じられたようだ。いくつかの訓練で、体力、知力、知識、そして永遠に磨かれる観察力を自然と手にしていた。隊で成し遂げるには、互いに助け合う気持ちも重要だということも分かった。

今回のチャレンジは、参加した親子は、どのように感じてくれただろうか。

龍安寺に早くゴールした班の参加者に意見を聞いてみた。
・私はしんどかったですが、子どもはレスキュー隊員になって、すっかりやる気になって頑張っていました。１年生ですが、同年代の子どももいるので、頑張れたと思います。
・６年生の班長は、責任感を持って頑張っていたと思います。私たちの体力も気にしてくれたので安心して付いていけました。あれ以上のペースではついていけなかったです。
・一番しんどい階段の道は、けっこう階段の数を数えることに集中して、しんどいと言うことを忘れていました。でも、遅くなる子どもや保護者にペースを合わせてくれました。大きな声で数を数えてくれたのに勇気をもらいました。
・助け合うことはあまり体験できませんが、皆が同じ気持ちで気持よく声を掛け合って、楽しく登れました。
・負傷者は、どんな様子なのか心配しましたが、大したことはなくて安心しました。負傷者をロープで引っ張り上げる方法や救急車を呼ぶための１１９番への連絡方法を学べたのはよかったです。最後までレスキュー隊の仕事ができたと思います。
・ロープを使って負傷者を引っ張り上げるという体験について、スカウトがいつもロープを準備して持っていることはいいことですね。不要な物は持ちたくないですが、何か起きた時に役に立つと思えば、なんと言いましたか、「そなえよつねに」でしたね。お役に立つためにロープを持っておく気持が強くなります。
・展望台から望遠鏡で手旗信号を読み取るというのは、初めての体験でした。３年生以上の子どもたちが、あんな技術を持っているのは感動でした。説明資料を団委員長からいただきました。私にとって、ちんぷんかんぷんでしたが、言葉として伝えることができることは素晴らしいです。子どもにも覚えてほしいと思いました。
・声が届かなくても手振りで言葉を伝えられるのですね。旗を使わなくても日常的に利用できると面白いですね。ボーイスカウトは、隠された能力を持っているので頼もしく感じました。
・観察力の意味がよくわかりました。自然の中ではしっかり周囲を見渡すことが必要ですね。足元を見て安全を確認することは大事です。その上で、追跡サインとかダムの場所とか、簡単に見つけてしまう能力は、日頃から観察を意識しているからこそできるのですね。子どもは外で遊ぶことが重要だと思いました。

これで終わったら、詳しいことは何もわからないままです。それでは、豊中

第２団の企画チームから、いくつかの場面について、レスキュー隊の活躍を振り返ってみましょう。

【助け合い階段】

　はじめは、橋を渡ると目の前にすぐ現れた階段を見た。

「わあ、すぐに階段だ。ここに３８０段と書いてある。これが正しいかどうかわからないんだ」

　班長がみんなに声を掛けた。

「ここから階段になっています。３８０段は長いです。でもここを登れば後は楽です。頑張りましょう。助け合い階段だから、助け合って登りましょう。それと階段の数を数えると元気が出ます。正しい段数を調べますから皆で協力しましょう」

　１００段ずつを目標にして登ることにした。

「ここで１００段だ」

「残りは２８０段だ。頑張ろう」

　班長は、時間を見ながらペースを図っていた。

「今、１０分を過ぎて２００段登りました。いいペースですよ。早く登らなくてもいいですからこのペースで登ってください」

　体験のお母さんが言った。

「ちょっと休憩してください」

　班長が答えた。

「わかりました。１分間休憩します。上に上がってから５分間休憩します。ゆっくり登りますから頑張ってください」

　後は何とか休まずに登り続けた。

「３５０段だよ。後は３０段だ。頑張って！！」

「みんな頑張ろう」

と声を掛けながら、元気をだして登り終わった。

「階段は、何段あったのかな」

と班長が聞く。

「３７９段」

　皆が声を出した。

「よし。３７９段だ。あそこに休憩所がある。疲れたね。休憩するよ」

　なんとか２５分掛けて登れた。ここからは平たんな道になった。皆は、ほっとした顔になっていた。

【追跡サイン】

　観察に中には、追跡サインがあった。地図があるけれど、そんなに簡単ではなく、分岐する場所については慎重に観察をした。そこをよく見ると２団の追跡サインが置かれていた。これで間違いがない。
「追跡サインがあったよ。ここで山道に入るんだ。地図と一致しているから大丈夫だ」
　体験者は、追跡サインを見て、「へえ、これが追跡サイン。どうして方向が判るんですか」と班長に質問した。
「追跡サインは、矢印のようになっていて、その方向に進めという意味です。それに別の方向には、×印もありますね。×印は進んではいけないという意味です」
「なるほど。これを見落とすと間違ってしまうのか」
「これはなんだ。石がいっぱいある。人が作ったものだよ」
　これは石の数だけ矢印方向に進むとメッセージがあるというサインだ。
　体験者は、秘密の暗号を見たような気分になった。
　レスキュー隊は、着実に負傷者がいるらしい場所に近づいて進んでいった。

【展望台からの情報入手】
　はじめが展望台に到着すると、リーダーが一人立っているのが見えた。そのリーダーの前に整列して指示を聞いた。
「皆さん、周りを見渡してください。指令書がどこかに置かれています。それを観察力で見つけてください」
　これは、案内板のところに括られていたのを簡単に見つけてしまった。
「さすが、早いですね。すばらしい観察力です。班長、指令書を読んで下さい」
　指令書には、こう書かれてあった。
「ここでは、素早く対応することが大切だ。
　展望台からダムを探せ、そこに浜嶋団委員長が手旗を持って立っている。展望台に置かれた望遠鏡でそれを見られるようにしなさい。君たちは、３倍に拡大できる望遠鏡を持ってきたはずだ。まず、それで探してみよう。見つかったら１０倍の望遠鏡で手旗を読むようにしてください。
　相手側の団委員長は、君たちが団委員長を見つけたら、班のリーダーから携帯メールを送ることを忘れないでほしい。内容は、「〇〇班到着」だ。メールを送らないと手旗は始まらないぞ。そして、手旗は３回しか行われない。どうしてもそれで分からなければ、後２回要求することができる。これは、『追加を２回要求』だ。但し、それは１０点の減点になってしまうぞ。このメールを、もう一度送ることだ。
　最後に完了したら、『〇〇班完了』を送ること。これが無いと後から５点の減点だ。
　手旗で場所がわかったら、急いで負傷者を救助しに行ってください。てきぱきしないと、君たちの持ち時間がどんどん少なくなるぞ。頑張れ！！」

　指令書を読み終わると、リーダーが声を上げた。
「ダムを探してください。浜嶋団委員長がそこにいます。望遠鏡をザックから出して、それで探してください。見つけたら連絡してくれ。急いでやってください」
　スカウトたちは、すぐに望遠鏡を取り出した。見晴らしのいい場所に固まって探し出した。
「手旗が得意なスカウトは、こちらに来てください。読み取りの代表です」
　そこに、ボーイ隊スカウト２名とカブスカウト１名がでてきた。
「よし、君たちで手旗信号を読み取ってください。私が合図するから待機してもらう」
「リーダー、見つけました。あそこに団委員長がいます」
「よし、手旗を読むスカウトは、１０倍の望遠鏡を使って浜嶋団委員長を見え

るようにセットしてください。今からメールを送るから、すぐに始まるぞ。みんなで声を出して読んでくれ。他の人はそれをメモしてください」
　メールが送られると、浜嶋団委員長の手旗が始まった。
　ゆっくりした手旗なので、スカウトにとって難しいものではなかった。ただ、望遠鏡が揺れて、しっかりと団委員長の手旗がとぎれとぎれになってしまう。３回手旗を繰り返してもらった。
　スカウトが一言一言言うのを聞いていたリーダーが言った。
「記録係の人、まとめてください」
「ミノオビジターセンター」
　リーダーは、
「わかりましたね。ビジターセンターは、地図で確認してください。駐車場は、ビジターセンターをまっすぐ進んで下さい。トイレを見つけたら、その裏に進んでください」
　皆んな、元気が出て、急いでビジターセンターに向けて出発した。

【負傷者の救助と運搬】
　負傷者は、手旗の読みとりでビジターセンターにいることが分かった。広場に到着すると担当のリーダーがいた。全員整列して報告した。
「お昼まで少し時間がありますので、先に救助作業をしてください。今しないと後から他の班がやってきて、順番が変わってしまうかもしれないです。始めてください。あそこのリーダーのところに行ってください」
　斜面の上のリーダーのところに行くと、その横の斜面の下に負傷者に扮したリーダーがうずくまっていた。
「〇〇レスキュー隊の皆さん、救助に来てくれてありがとうございます。それでは、あそこにいる負傷者をここまで引っ張り上げてください。負傷者は片足は使えるようですが歩けません。方法はお任せしますが、スカウトが持っている６ｍロープを使用してください。皆で力を合わせると早いですよ。それでは、開始」
　班長が、指示した。
「もやい結びを使います。体に回す大きさの輪を作ってください。手で持つロープには八の字結びを作ってください。これでロープが滑ることを防ぎます」
　てきぱきともやい結びを作っている。輪が小さくてやり直したりしている。
「できたもやい結びの方を負傷者に投げてください」
　そして、負傷者に向かって言った。
「負傷者のリーダー聞いてください。いまからもやい結びのロープをいくつか

投げます。それを体に回してください。全部回したら一緒に引っ張ります」
「わかった。ありがとう」
「それでは、みんな準備できましたか。では、負傷者のリーダーも引っ張っていいですか」
「いいよ」
「じゃあ、引っ張ってください。ゆっくりですよ」
　４本のロープが体に回されているので、簡単に体が動き出した。
　なんなく、リーダーを上に上げることができた。

　ここで、担当のリーダーが、次を説明した。
「さすが、レスキュー隊ですね。無事に負傷者を助けることができました。ここからですが、負傷者を病院に運ぶのは救急車をお願いします。皆さんは、電話で救急車を呼んで下さい。ただし、今回は無線機を使用します」
　担当リーダーは説明用のパネルを取り出した。連絡内容は、火事か救急か。現在地及び記号、名前などを次々と連絡した。

【待ちに待った昼食】
「お腹がすいたあ」
　負傷者を救助したら１２時を過ぎたところだった。
「皆良く頑張ったから、さあ、昼ご飯を食べましょう。駐車場の前に休憩所があったね。あそこで食べましょう」
　駐車場に戻って、橋を渡るとすぐそばに休憩所があった。

【箕面の滝】
　このハイキングコースは、箕面の滝の上に下りていく。下り道は結構きつかった。３８０段の階段で登るコースでよかったかもしれない。
　滝の上に下りてくると駐車場から歩いてくる人たちがいっぱいいた。ビジターセンターから道路道を歩くと簡単に滝の上にでてくるのだが、ハイキングの道として、ビジターセンターから一度山を登って、散策道を下りてきた。
　滝として落ちる川を見ながら、滝を上から見える場所に着いた。滝を右に見ながら下りていく。もう、ここまで来たら厳しい道はない。滝の下に着くとひんやり涼しくなった。後は緩やかな下り道だ。たくさんの人が行き来している。残りは、２５分ぐらいだ。班長は、だいたい予定時間で歩いていることを確認した。

親子ハイクの達成感は、自分の成長の証

　はじめとお母さんは、親子ハイクから家に帰るとソファーに横になった。
「疲れたわー。でもなんかいっぱいありすぎで、楽しかった」
「ほんとね。歩くだけじゃなかったけど、山に登るしんどいことを忘れていたわ」
「ボーイスカウトって、いろんなことを知っているんだね。いつ、あんなことを覚えているんだろう」
「毎日活動しているわけでないから、自分で練習しているみたいね」
「おもしろかったよ」
「はじめは、親子ハイクで何かいままでと違ったことができたようになったみたいね。少し、逞しくなったという感じかな」
「うん、そう思うよ。あれだけ歩いたし、知らない人と挨拶もできたし、観察も頑張ったからね」
「皆んなとなかよくできたね」
「そうだよ。最初は知らない人だったけど、階段の場所では助け合ったんだ」
「ボーイスカウトのお兄ちゃんたちは優しかったね」
「ほんと、みんな親切で優しかった」

あとがき

　１０月８日の親子ハイクを題材に、はじめ君が親子ハイクに参加する想定で、創作してみました。
　狙いは、親子ハイクに参加していただく体験者や豊中第２団のスカウトや保護者、リーダーに楽しんでもらうことと、ＨＰに掲載する情報で知識を深めてほしいことです。それで、今までの親子ハイクを１０倍楽しくしたいという思いがあります。
　また、ボーイスカウトの活動がＨＰに記録として残ることは、とても有意義になると思います。
・活動の狙い、趣旨、プログラムの詳細を多くの人に理解してもらう。
・ボーイスカウトは教育活動です。これをうまく説明することは難しいです。体験的に感じてもらえる効果があります。
・毎回の隊集会、舎営、キャンプなどについて、事前の情報が活動の成果を高める効果があると信じています。そのために事例を残し、今後の活動を充実させることができれば、ボーイスカウト活動をさらに拡大することができると考えています。
・写真や感想だけではなく、教育的活動への深い思いがあります。それをもっと知ってもらえるようになります。

10月8日親子ハイク「行くぞ！　箕面の山のレスキュー隊！」

ボス猿からの挑戦状だ
レスキュー隊出動！

今日の体験者紹介

スカウトサイン

出発セレモニー、トトロの「散歩」で元気いっぱい！

目指せ、こもれび展望所（箕面川ダム堰堤より）

「Ｅｎｊｏｙ！」ハイキングを楽しもう、ゲームを楽しもう

380段の階段に挑戦
階段を登ったらおもしろ写真を撮ろう

うさぎ班

くま班

きりん班

ビジターセンターの写真がない・・・怪我人の救出はできたのか？

おっ、追跡サインだ

雲隣展望台を過ぎれば、楽々だ。 箕面の滝でおもしろ写真？

龍安寺に到着、お疲れ様でした。

うさぎ班が到着

くま班が到着

きりん班が到着

ここで、
猿にはない「３本の毛」の話
・しつけ　・なさけ　・やりとげ

レスキュー隊員は、全員、
備わっていることがわかった。
君たちはすばらしい！！

豊中第２団のHP（１０月９日）から引用

「親子ハイク」安全対策実施計画書

１．　弁当の保冷に関する注意

・事前に保冷することを伝えること。ＨＰに掲載するが参加者には連絡をすること。

２．　服装の確認

・体験者は、帽子を確認すること。

・水筒は、ザックに入れて、歩きやすくすること。

・水筒の水を飲むときは指示をする。一度にたくさん飲まずに、残りを確認させること。

３．　集合から箕面駅までの安全対策

班長、班リーダーは、体験者の顔を確認しておくこと。メンバー確認は人数で確認すること。

（１） 駅のホームの待機と乗車

・電車の乗車は、各班でも人数が多い。各扉で６名程度に分散すること。

・乗車中は騒がない。

（２） 石橋駅の乗り換え

・石橋駅及び帰りの豊中駅での降車のときは、早めに知らせる。最後にリーダーが降車を確認する。

・降車後に人数を確認すること。

（３） 箕面駅での降車

・降車後に人数を確認すること。

（４） 箕面駅広場での班旗作成時

・他の通行者の迷惑にならないように固まる。

・走り回らないこと

４．　レスキュー隊のハイキング実施に関する安全対策

（１） 箕面駅から龍安時までの徒歩

・自転車の往来がある。一列で右側を歩く。自転車や車の通行については、列も前後から声を掛ける。

（２） ３８０段の階段

・年少者、保護者の状況を確認して、無理をせずに登る。

・ゆっくり登る。
・階段の段数で、残りを分かるようにして、気持ちを軽くする。
（３） ハイキング道の分岐地点の確認
・地図で確認しながら歩くが、下見実施のリーダーは、良く見ておく。道を外れたら適切に指示をする。
（４） こもれびの丘から道路道に下りる斜面
・距離は短いが、急な斜面になっている。ゆっくり下りること。
（５） 急なハイキング道の対応
・ゆっくり歩く。先頭の班長が全体のペースを見ながら調整する。
（６） 箕面の滝から龍安寺までの一般道の歩行
・自転車の往来がある。一列で右側を歩く。自転車や車の通行については、列も前後から声を掛ける。

５． ポイントプログラムの安全対策

（１） 展望台での手旗プログラム
各レスキュー隊について
・手旗を読む場所は、台の上に乗る。双眼鏡を見ながら乗るので、安全を確保する要員を一人置くこと。
・展望台の石垣の上には上らないこと。

手旗の発信のため、箕面ダムでの行動について
・歩道から手旗を打つ。道路の車の走行は少ないが、２人で常に確認する。道路にはでない。
・脚立に乗って手旗を打つ。手旗を打つ時は、打たない人は、脚立から落ちないように補助する。
・フェンスを越えて、ダムの堤体側に下りないこと。
・天気がいい時は、長く日向にいないで、日陰に入って待機すること。

（２） ビジターセンターの負傷者の救助
救助する時は、荷物を降ろして一か所に固めておく。
救助作業は、起伏のある緩い傾斜で行う。地面は滑りやすいので年少者は、安定した場所に立つように確認する。
２本のロープの結び方は、本結びでなく一重つぎで行う。担当リーダーは確認すること。
負傷者を引っ張り上げるときは、合図をしてからゆっくり行う。

（３） ビジターセンターの昼食時の行動

周辺の移動は、駐車場に出入りする車があるので、注意する。年少者は、リーダーまたは保護者と一緒に動くこと。

他の利用者がいっぱいいる。走らないこと。

（４） キムスゲーム

（５） 全体ゲーム

６． 車移動のスタッフについて

・車は、箕面駅からのくねくね道を慎重に運転すること。

・下見を必ず行い、当日は落ち着いて運転できること。

・ビジターセンターの駐車場は、人が多いので駐車場内で特に気を付ける。同情者も注意を払う。